

【研究論文】

地域における SDGs の理解を深める取り組みについて —食物アレルギーをテーマとした親子クリスマス会を開催して—

愛知学泉短期大学 熊崎稔子 大森有希乃 児玉珠美 山本辰典

要旨

SDGs の目標である「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」の実現に向けて、学生とともに食物アレルギーをテーマとした親子クリスマス会に取り組んだ。本取り組みにおいては、学生たちが制作した食物アレルギーに関する紙芝居の読み聞かせやクイズを取り入れた寸劇を通して、地域の親子に食物アレルギーをもつ子どもたちの除去食についての理解と、周囲と同じものを食べられない子どもたちへの理解と共感を得ることを目的とした。参加者のアンケートより、子どもたちが楽しく参加できたことや食物アレルギーの除去食について理解が深められたという結果が得られた。また、SDGs の「すべての人に健康と福祉を」の趣旨に該当するかという質問に対して 85%の方が該当すると回答されたことから、親子クリスマス会は、食物アレルギーに対する意識の向上と SDGs との関連性に対する理解を高めることに寄与したものと考えられる。

1. はじめに

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、2015 年 9 月の国連総会において採択された。持続可能な開発のための 17 の国際目標 (図 1) が掲げられ、その中に 169 のターゲットが含まれている。SDGs の “No one will be left behind” (誰ひとり取り残さない) という理念は、多くの小・中学校や高等学校、大学、企業、地域などで行動指針や目標となり、人々の意識改革と行動の変容を促進している。



出典：国際連合広報センターHP

図 1 SDGs の 17 の目標

明星大学では SDGs に関するポイントプログラムを開始し、ポイント収集をしながら SDGs の自発的な学習を行い、SDGs 分野を日本で一番理解した学生を目指す取り組みをしている¹⁾。大日本印刷では、印刷と情報の強みを掛け合わせ、パートナーとの連携を深め、社会の課題を解決する新しい価値の創出などに取り組んでいる²⁾。また、働く女性の心や体の悩みを共有して解決するフェムテックの普及・導入³⁾、洋菓子店の障がい者の個性を生かした活躍の場としての就労支援⁴⁾、腹話術でいじめを防止する啓発活動⁵⁾などが新聞で報じられており、我が国においても SDGs の実現に向けて、様々な領域で多様な取り組みがなされている。

また、令和2年度の SDGs に関する全国アンケート調査結果（実施主体：自治体 SDGs 推進評価調査検討会）⁶⁾によると SDGs について「持続可能な開発を目指す上で 経済、社会、環境の統合が重要であること」「17のゴール、169のターゲットから構成されるということ」「2030年までに達成すべきゴールであるということ」を知っている人の割合は 97.5%と高く、社会的な認知度が高いことが窺える。さらに 17の目標のうち、「これまで特に力を入れて取り組んできた課題」に関する質問項目では、11「住み続けられるまちづくりを」、3「すべての人に健康と福祉を」と4「質の高い教育をみんなに」の認知度が高く、「今後も引き続き注力したいと思っている課題」においても同様に、11、3、4の項目の認知度が高い結果であった。

そこで、17の国際目標の中の「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の二つの目標に着目し、乳幼児に増加している食物アレルギーへの理解をテーマとした親子クリスマス会に取り組むこととした。我が子の食物アレルギーの有無にかかわらず、食物アレルギーについて正しい知識を持つことは「質の高い教育をみんなに」という目標の実現に繋がり、食物アレルギーがある子どもへの理解や共感「すべての人に健康と福祉を」に繋がると考えた。

2. 方法

親子クリスマス会は「みんないっしょのクリスマス」というタイトルで、2022（令和4）年12月3日（土）、午前の部（11時～11時45分）、午後の部（13時～13時45分）で開催した。会場は愛知学泉大学・愛知学泉短期大学の音楽ホールとした。対象者は未就学児の親子とした。

(1) 食物アレルギーに関する紙芝居

本学幼児学科の学生が、「子どもの食と栄養」の授業の中で、食物アレルギーについて学び、食物アレルギーに関する紙芝居を制作した。内容は食物アレルギーのある幼児が保育施設で抱える不安を解消できるもの、食物アレルギーのない幼児も食物アレルギーについて知る機会になるものとした。授業においてはグループワークで10作品制作し、その中から内容が重複しないように2作品を選んだ。2つの紙芝居をそれぞれスキャンし、デジタル紙芝居にしたものを読み聞かせた。

(2) 食物アレルギーに関するクイズを交えた寸劇

本学食物栄養学科の学生が、食物アレルギーについて学んできた知識を、一般の方や子どもたちに伝えるために、クイズを交えた寸劇を考案し演じた。

(3) お楽しみの楽器演奏とダンスタイム

クリスマスにちなんだ曲や幼児が好きな曲の楽器演奏を、末武可奈子氏（KOROGI 社

所属のマリンバ奏者) がマリンバ、本学の津島忍教授がピアノを担当した。ダンスのリードは幼児教育学科の学生が担当した。

(4) アンケート

クリスマス会に参加した親を対象に任意で留置き式アンケートを実施した。

聞き取り内容は、クリスマス会に子どもが楽しく参加できていたか、食物アレルギーとなる原因食品の認知、食物アレルギーの代替食について、紙芝居や寸劇の内容のわかりやすさ、SDGs の理解への繋がり等とした。

アンケートは単純集計としてまとめた。

(5) お土産作りと提供

三大アレルゲンである鶏卵、牛乳・乳製品、小麦粉を使用しない焼菓子をお土産とし、食物アレルギーではない子ども、食物アレルギーのある子どもにも同じ菓子を渡した。幼児教育学科・生活デザイン総合学科の学生がアイスボックスクッキーを、食物栄養学科の学生がオートミールクッキーとココアのカップケーキを作った。

3. 結果および考察

親子クリスマス会の参加者人数は、大人 108 名、未就学児 131 名であった。食物アレルギーのある大人は 1 名、未就学児は 19 名であった。参加した未就学児のアレルギーとなる食品は鶏卵が 11 名、牛乳が 6 名、小麦が 1 名であり、ナッツ類や果物もあった。三大アレルゲンとされている鶏卵、牛乳が多いことが窺えた。

(1) 食物アレルギーに関する紙芝居について

子どもたちは、安全な環境で日々を過ごし、保育施設での集団生活を通して様々なことを経験し学んでいく。紙芝居を見ることで、幼児が食物アレルギーを知り、保育施設などの集団生活の中で、みんなと一緒に給食やおやつを食べることができない食物アレルギーのある友達の気持ちに寄り添うことができると考えた。また、食物アレルギーのない幼児の保護者や地域の方にも食物アレルギーの理解を深めてもらうことで、SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくりを」、3「すべての人に健康と福祉を」および 4「質の高い教育をみんなに」の取り組みを行うことができる。

幼児教育学科の学生が制作した紙芝居の内容は、食物アレルギーの理解に加え、好き嫌いとの違いや食物アレルギーのためみんなと同じものを食べることができない気持ちに寄り添ったものになった。クリスマス会で読み聞かせを行った 2 作品は、手遊びを入れたり、ヒーローの登場など幼児が興味をもって集中して聞くことができるように工夫した。

「あれるぎーってなあに？」(図 2) と「みあちゃんとカレーライス」(図 3) の内容は以下とおりである。



卵アレルギー、牛乳アレルギー、小麦アレルギーのあるお友達に悪い宇宙人が、卵や牛乳やパンをおいしいからと言って食べさせようとする。なんでも食べないと大きくなれないと言われて、心配になるお友達。そこにヒーローがやってきて、悪い宇宙人からお友達を守るとともに、食物アレルギーがあっても他の食べ物で栄養をとれば大きくなれることを教える。子どもは食物アレルギーがあっても自分は大丈夫なんだと安心する。

図2 「アレルギーってなあに？」の紙芝居の一部とあらすじ



みあちゃんは小麦アレルギーのある年長児。今日はみあちゃんの通う幼稚園のお泊り保育。お泊り保育がとても楽しみなみあちゃん。夕飯はみんなで野菜を切ってカレーライスを作った。みあちゃんがおかわりしようとする、みあちゃんのカレーだけ別の鍋で作ってあった。なぜ、みあちゃんのカレーだけ違うのか不思議に思うお友達とみあちゃんに先生が食物アレルギーについて説明する。先生の話聞いたお友達も、みあちゃんが間違えて小麦粉の入ったものを食べないようにみあちゃんを守る約束をする。

図3 「みあちゃんとカレーライス」の紙芝居の一部とあらすじ

将来、保育者を目指す学生が食物アレルギーについて学び、教材を制作することでさらに理解を深めることができたものと思われる。保育者として「誰ひとり取り残さない保育」を実施していくことは、SDGsの達成につながるものと考えられた。

(2) 食物アレルギーに関するクイズを交えた寸劇について

食物栄養学科の学生は、「食物アレルギー概論」で修得した専門知識を基に、子どもたちに分かりやすく食物アレルギーについて伝えるために、「食物アレルギーのおはなし」と題してスクリーンを活用し、クイズを交え、参加した親子と対話を交えながらの寸劇を上演した(図4)。「食物アレルギーのおはなし」の内容は以下の図5のとおりである。



図4 寸劇の様子



かなこちゃんは食物アレルギーがあり、卵、牛乳、小麦が食べられないことを友だちに伝えた。友だちは食物アレルギーがないため、かなこちゃんに食物アレルギーについて教えてもらうことにした。卵を使っている調味料はどれか、牛乳は加熱したら飲んでもよいのか、小麦を使っていない菓子はどれか、についてクイズ形式で学習をすすめた。さらに、食物アレルギーがある場合、代替食という方法があり、小麦粉は米粉に、牛乳は豆乳に代えれば食物アレルギーがない子と同じものが食べられることを伝える。お土産として配布するクッキーやケーキは、卵、牛乳、小麦を使用していないため、安心して食べられることを伝え、食物アレルギーのある子にとって、みんなと同じものを食べられることが嬉しいことを知らせた。

図5 「食物アレルギーのおはなし」のパワーポイントの一部とあらすじ

(3) お楽しみの楽器演奏とダンスタイムについて

マリンバとピアノでギャロップ、さんぽ、チョップスティックス、きよしこの夜などを演奏し、マリンバの音色を楽しむとともに、クリスマス会を盛り上げることができた(図6)。また、マリンバとピアノの伴奏で赤鼻のトナカイのダンスを参加者全員で踊った。子どもたちが全身を使って、楽しそうに踊っている様子が印象的であった。



図6 演奏とダンスの様子

(4) アンケートの結果

本会の参加者 75 組の保護者にアンケートを任意で実施し、70 組の回答を得られた。アンケートの結果は以下のとおりであった。

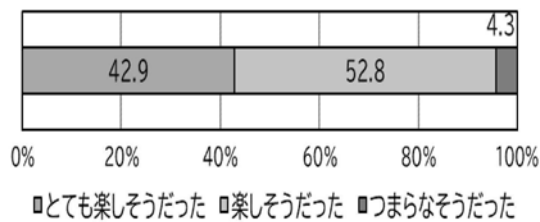


図7 親子クリスマス会に参加した保護者の感想

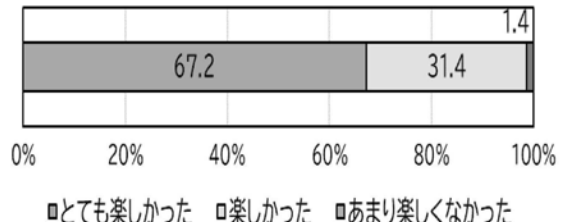


図8 保護者からみた子どもの様子

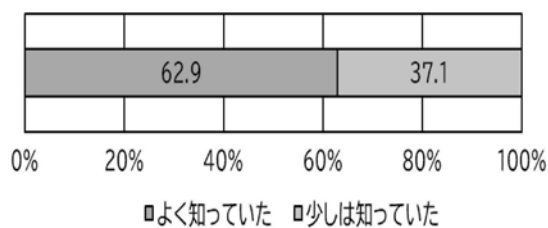


図9 食物アレルギーとなる食品の認知

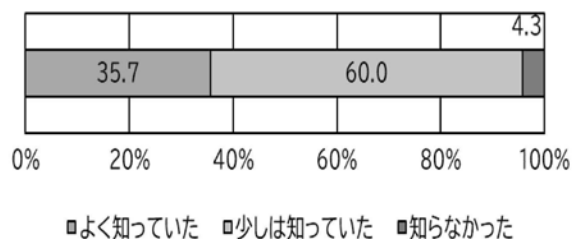


図10 食物アレルギーの代替食品について

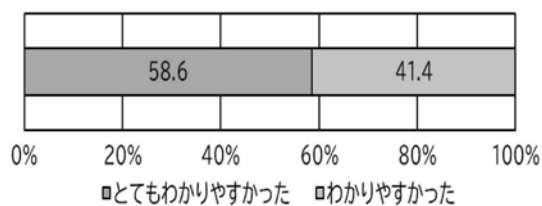


図11 紙芝居や寸劇の内容の分かりやすさ

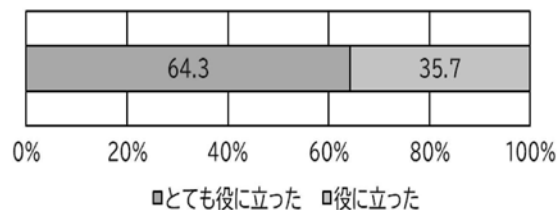


図12 食物アレルギーを知るうえで紙芝居や寸劇は役立ったか

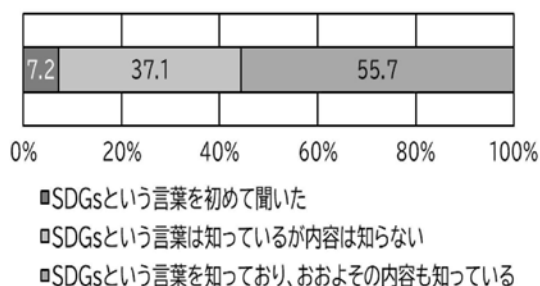


図13 SDGsの認知

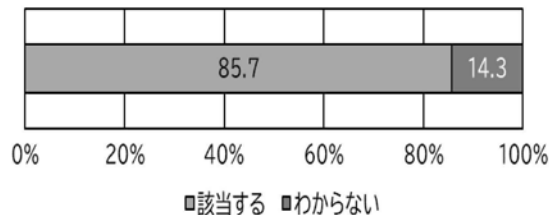


図14 本会社がSDGsの「すべての人に健康と福祉を」の主旨に該当するか

クリスマス会に参加した保護者の感想、子どもの様子は、図7、8より95%以上の人が楽しめたという結果であった。紙芝居の読み聞かせ、クイズを交えた寸劇、音楽、ダンスの構成は、親子で楽しめる内容であったことが推察された。

食物アレルギーとなる食品の認知度は(図9)、知らない人が全くおらず、食物アレルギーに対する認知度は高かった。また、食物アレルギーの代替食品についても95.7%の人が知っているという結果であった。児玉らが開催した2021年12月の親子クリスマス会では食物アレルギーの食品を知っている人および食物アレルギーの代替食品を知っている人はそれぞれ87%であり⁷⁾、食物アレルギーの食品の認知度、代替食品の認知度は高まっていることが窺えた。

学生の制作した紙芝居や寸劇については、「とてもわかりやすかった」58.6%「わかりやすかった」41.4%であり(図11)、すべての参加者に理解してもらえた結果であった。さらに、紙芝居や寸劇についても参加者全員に役立つ内容であった(図12)。

SDGsの認知度については(図13)、言葉を知っている人は92.8%であるが、内容まで知っている人は55.7%と半数程度であった。しかし、クリスマス会の進行においてSDGsの説明をしたことで、本クリスマス会が目標の1つである「すべての人に健康と福祉を」に該当すると回答した人が85.7%であった。SDGsは「誰一人取り残さない社会」の実現

であり、身近な問題点を意識し、皆で問題を考え解決していくことが必要である。本クリスマス会は、食物アレルギーがある子もない子も、食物アレルギーについて知る場となり、それが SDGs の実現に繋がっていることも理解される機会となった。

(5) お土産の配布

三大アレルゲンである鶏卵、牛乳・乳製品、小麦を使用しないクッキーとケーキをセットし（図 15）、帰り際に 1 人 1 袋ずつ手渡した（図 16）。家庭でも作ることができるように、レシピも提供した。



図 15 お土産の焼き菓子



図 16 お土産の配布の様子

5. まとめ

SDGs の目標である「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」の実現に向けて、学生とともに食物アレルギーをテーマとした親子クリスマス会に取り組んだ。本取り組みにおいては、学生たちが制作した食物アレルギーに関する紙芝居の読み聞かせやクイズを取り入れた寸劇を通して、地域の親子に食物アレルギーをもつ子どもたちの除去食についての理解と、周囲と同じものを食べられない子どもたちへの理解と共感を得ることを目的とした。参加された方のアンケートより、親子クリスマス会は、食物アレルギーに対する意識の向上と SDGs との関連性に対する理解を高めることに寄与したと考えられた。

謝辞

「みんないっしょのクリスマス会」は、学校法人安城学園創立 110 周年記念の助成金を受けて開催した。「みんないっしょのクリスマス会」の開催にあたり、ご協力いただいた KOROGI 社のマリンバ奏者 末武可奈子氏、本学のピアノ奏者 津島忍教授、運営補助として本学研究補助員の木村咲良氏、手島裕美氏、お土産作りおよび運営参加の本学幼児教育学科、食物栄養学科、生活デザイン総合学科の学生に感謝いたします。

引用文献

- 1) 安岡寛道「SDGs 経営の促進に向けたインセンティブの研究 —明星大学「SDGs ポイント」に見る 学生の取り組みに関する一考察—」明星大学経営学研究紀要、18、2022 年、89-102 頁
- 2) 鈴木由香「印刷業界における SDGs とは？ —大日本印刷における取組事例—」日本印刷学会誌、57 (2)、2020 年、66-69 頁
- 3) SDGs ジェンダー平等を実現しよう 企業向け「フェムテック」導入広がる、中日新

- 聞、2023. 3. 6、朝刊、17 頁
- 4) ミカワ SDGs 働きがいも経済成長も 洋菓子店が障害者就労支援、中日新聞、2023. 3. 12、朝刊、21 頁
 - 5) ミカワ SDGs 平和と公正をすべての人に 宇野政博さん、中日新聞、2023. 3. 19、朝刊、11 頁
 - 6) 自治体 SDGs 推進評価調査検討会「令和 2 年 SDGs に関する全国アンケート調査結果」
https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/kaigi/pdf/sdgs_enquete_chousa_r02_kekka.pdf
(2023.3.11 アクセス)
 - 7) 児玉珠美、大森有希乃、熊崎稔子、山本辰典「保育者養成課程における食物アレルギーに対する意識向上のためのプログラムに関する研究」愛知学泉大学紀要、5 (1)、2022 年、51-61 頁